

NEWSLETTER

No020320

1月最後のマトリックスの数値構造は全体的ほとんどフラットとい^う状態で終わりました。先週は初め(1/27)と終わり(1/31)で2度にわたり比較的大きなRSC(“Reverse Structural Change”;単に“リバース”と呼んでもいいでしょう。)が発生しました。それが発生した原因(外部要因)は探せばそれなりの材料が見つかるでしょうが、今日の前で起きている数値/数値構造の変化だけを受け止め数学的変化として捉え対応することが大事です。

⇒ マトリックスの教値/教値構造の性質を理解する。

下のテーブル(表)の含まれた数値には負の値が含まれています。それほど大きなものではありませんが、わずかに“歪み”が見られます。

1/31		F1	F2	F3	F4	F5	F6
1/1		[02]	[03]	[04]	[05]	[06]	[07]
F6	[07]						18.00
F5	[06]					17.90	0.10
F4	[05]				17.60	0.30	0.40
F3	[04]			17.80	-0.20	0.10	0.20
F2	[03]		17.70	0.10	-0.10	0.20	0.30
F1	[02]	18.20	-0.50	-0.40	-0.60	-0.30	-0.20

○ : 歪み

下にいくつかの△を掲げました。

一番の上の図(△AGF)は歪みを反映させていません。Y軸の数値の大小関係から“歪み”を捉えてください。

△AGFとハンドテーブルを照らし合わせてみてください。

ハンドテーブルは△の図の下に掲げました。左側にY軸の数値を加えました。

ハンドテーブルとトライアングルを融合してご覧ください。

